

第53回中学生作文コンクール

優秀賞

未来設計図

長野県 中野市立南宮中学校 二学年

山田 奏海

私は今まで、深く「保険」と関わったことはありません。テレビのコマーシャルでならよく見かけますし、名前もよく聞きます。しかし、なにも考えずに、ただボーっと見ているだけ。なので私は保険について、なんの知識もありませんでした。

なにも知らずにこの作文を書くのは大変です。でもこの状態のまま大人になって生活していく方がもっと大変だと思った私はまず、父の保険を教えるもらうことにしました。父は、家族のために病气やケガに備えた保険にすっかり入ってくれていました。私はまだ、保険のお世話になったことがなかったので知りませんでした。いつながあってもいいように家族を守ってくれていた親と保険には感謝しなければいけないと思います。

私は十代の学生です。なので今はまだ親に守ってもらう気楽な立場です。しかし、あと六年で成人します。社会人としてちゃんと働き出します……が、まだまだ未熟なので、なれない自動車を運転すれば事故だつて起こしてしまうかもしれません。二十代にもなれば、このような事故が起きても困らないように自分で自分のために保険に入ります。社会に出て働いていれば、あつという間に三十代。この頃には結婚して、新しい家族だつてできているかもしれない。今までは、いつながあつても守られてきた自分もいよいよ守るべき家族のために保険に入ります。四十、五十代はガンや成人病が気になるってくる年齢です。もし一家の大黒柱が病気になるってしまったら大変。その病気に備える保険を探さなければいけません。病气とたたかい、子供を育てあげ、いよいよ六十、七十代。ここまでくれば、子供は独立しているでしょう。成長したのを見届けたあとは、自分のための保険でゆっくり老後の生活を楽します。自分の夢ややりたい職業、年齢や家庭によって入る保険が違うことを考えてみて分かりました。まだ十代で、保険に直接は関係のないことの方が多のですが、前より少しだけ保険のチラシやコマーシャルを意識して見てみたいと思います。

今回、いろいろ保険について知ってみて、思ったことがたくさん

第53回中学生作文コンクール

あります。一つは『保険とは、まるで未来設計図のようだ』ということ。今までなんとなく考えていた「大人になること」。なんとなくだったので、考えていたと言えるのかも分からないようなボンヤリしたものでした。この作文をとおして保険のことを学んではいなかったとしたら、私の将来もイメージ通りのボンヤリ人生になってしまったのかもしれない。でも、保険でさっき考えたような「人生の型」が創れたので、ここに私の将来の夢を注げば立派な未来設計図を創ることができなのです。保険を知って思ったことのもう一つは『保険料は未来創りの援助金だ』ということ。病気やケガがないまま、もしもに備えて保険料を払い続けるのはとても大変なことだと思います。保険があつて未来設計図があつて初めて、これからの年代ごとに備えるべきもの、守るべきものを想像することができます。もし保険料を払わなかったら人生は型のないボンヤリしたものにもどってしまいます。未来のために今をがんばることが大切だと思いました。今は親に支えてもらっているけれど、私にこれから守るべきものができたら、そのときは私がしっかり支えてあげたいと思います。

この作文に取り組んだことが、「なんとなく」から「ハッキリ」と自分の未来を組み立てるキツカケになりました。